

光産業創成大学院大学 自己点検・評価の検証結果報告書



令和 7 年 2 月
光産業創成大学院大学
外部評価委員

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	検証結果のまとめ	
2-1	光産業創成大学院大学が特に優れていると評価できる事項	2
2-2	改善する必要があると思われる事項	2
2-3	今後の本学に期待すること	3
3	各委員の検証結果報告	
3-1	梅村和夫委員(座長)	5
3-2	原 和彦委員	6
3-3	宇津山晃委員	7
3-4	伊藤規晃委員	8
4	「外部評価を受けて」所見・今後の方向	9
5		
	(添付)	
1	外部評価委員会議事要旨	10
2	外部評価委員会委員名簿	12

自己点検・評価の検証結果報告書

梅村 和夫 委員 (座長)
(浜松医科大学副学長 (教育担当))

1. はじめに

学校法人光産業創成大学院大学内部質保証規程（以下「内部質保証規程」という。）及び内部質保証に関する細則に基づき「自己評価書」が令和6年11月に作成された。本外部評価委員は、内部質保証規程に基づき、第三者評価として同自己評価書を検証し、自己点検・評価の検証結果報告書としてとりまとめた。

第三者評価として検証するため、令和6年12月24日に同大学キャンパスにて、外部評価委員会が開催された。

座しての会議の前に大学施設の視察が行われ、外部評価委員全員で研究実験室（光加工・プロセス分野）、レーザー加工室、試作支援室及び起業ルームを担当教員の説明を受けながら見学した。

その後、伊藤学長と担当の教職員から自己点検結果等の概要説明があり、続いて、外部評価委員との質疑応答が行われた。

最後に外部評価委員が意見集約の結果を口頭にて伝えて、会議は解散となった。

その後、各外部評価委員は、

1. 本学が特に優れていると評価できる事項
2. 改善する必要があると思われる事項
3. 今後に期待すること

の3点についてのコメントを書類にて作成し、事務局に提出した。このコメントを座長が集約し、検証評価報告書（案）を作成した後に、各委員による精査を経て本報告書は作成された。

2. 検証結果のまとめ

2-1 本学が特に優れていると評価できる事項

- (1) 光関連技術が現代社会を支えていることは言うまでもなく、この分野における新産業や新事業の創出を担う人材を多く輩出していることは、産業界を始め日本の社会全体に貢献するものであり、高く評価できる。

光の応用で新しい産業を生み出すため、レーザー応用とバイオフォトニクスデザインを二本の柱として事業に取り組んでいる。特に「光技術を中心としたニーズとシーズの融合による新産業創成」を建学の精神とするとともに、「起業」による実践的な教育を通して、光技術を利用した新しい価値の創出をおこない、日本の将来の基幹産業となるべき新産業の創成を目指すという他に見られない特徴を有している。

実績として36名が「起業」している点を評価する。

- (2) 人材育成については、「レーザーによるものづくり講座中核人材育成講座」等を実施し、地域の人材育成に取り組んでいる。また、機械装置の充実を図るとともにハンズオン支援、試作支援室、起業ルームなど、在学生や修了生へのハード・ソフトの両面でのサポートなど、学生が求める支援体制を整備しようとしている。
- (3) 「Photonics Challenge」を開催し、光の応用産業の発見に資する人材及び適正な入学者の発掘に取り組んでいる。

2-2 改善する必要があると思われる事項

- (1) 適正な入学者を継続的に確保する必要がある。特に起業を目指す人を増やしていく必要がある。
- (2) 大学発で起業した人が、より会社を成長させていくことに対して、光産業創成大学院大学がサポートできる取組みは必要になる。
- (3) 情報・デジタル技術はあらゆる分野で革新をもたらす可能性があることから、その基本的な考え方や応用の仕方は、これからの起業や新事業開発においても重要な要素と思われます。シラバスから判断して、この技術に関する科目が開講されていないようですので、関連講義の新設や既存講義への取込みをご検討いただきたい。

- (4) 収入の多くを特定の企業からの寄附に頼っているが、特定の企業に依存せず、多方面からより多くの収入を確保すべきである。
- (5) 卒業生の活躍（起業、第二創業）を外部にアピールする機会をさらに増やしていく必要がある。

2－3 今後に期待すること

- (1) 起業を目指す入学生が増え、卒業生が起業した会社が成長し、社会から評価されるレベルになることを期待したい。また、新産業を創出する卒業生を排出することを期待する。
- (2) 日本全国から学生が集まり、浜松地区にベンチャーが集積することを期待する。
- (3) 光産業創成大学院大学が目指されている“技術と経営の融合した新産業創成”のうち、技術の裏付けとなるのが博士学位であり、これにより“光を用いて未知未踏の新しい産業を創成する”ことにつながるものと思います。また、事業をグローバルに展開しようとするれば海外の研究者、技術者、事業者等とコミュニケーションすることになり、そのような場で対等に渡り合うためにも博士学位が必須と言えます。広報や入学者の勧誘には、そのような博士学位の意義も是非アピールしていただきたいと思います。
- (4) 競争的資金等の獲得額が、R3 年度までは極めて高いレベルにあったが、R4、5 年度は減少している。事業の終了などの事情も考えられますが、競争的資金は研究面でのアピールにもなることから、その獲得に継続的に取り組んでいただきたい。
- (5) 地域企業との共同研究の実施により、企業の求める成果を出し、それが新しいビジネスに繋がること。また、光技術×浜松地域のものづくり技術の掛け合わせに繋がることを期待したい。
- (6) 企業から派遣された方が卒業して企業に戻り活躍して企業に大きく貢献すること及びそれを認めた企業が継続的に従業員を光産業創成大学院大学で学ばせたいと考えるようになることを期待したい。
- (7) 国においても博士後期課程学生は我が国の科学技術・イノベーションの将来

を担う存在と位置づけられており、貴学の修了生が今後さらに活躍されることを期待する。

検証結果報告

委員名 梅村 和夫

1 特に優れていると評価できる事項

- (1) レーザー応用とバイオフィotonicsデザインを、貴学の研究の二本柱としていること。
- (2) ピッチ会を開催し、適正な入学者を発掘していること。
- (3) 学生が求める支援に対応できるよう、支援体制を整備しようとしていること。

2 改善する必要があると思われる事項

- (1) 適正な入学者を継続的に確保すること。
- (2) 財政の基盤を特定の企業からの寄付に依存せず、多方面から募ること。

3 今後に期待すること

- (1) 新産業を創出する卒業生を輩出すること。
- (2) 日本全国から学生が集まり、浜松地区にベンチャーが集積すること。

検証結果報告

委員名 原 和彦

1 特に優れていると評価できる事項

- (1) 光関連技術が現代社会を支えていることは言うまでもなく、この分野における新産業や新事業の創出を担う人材を多く輩出していることは、産業界を始め日本の社会全体に貢献するものであり、高く評価できる。
- (2) ハンズオン支援、試作支援室、起業ルームなど、在学生や修了生へのハード・ソフトの両面でのサポート体制が充実している。

2 改善する必要があると思われる事項

情報・デジタル技術はあらゆる分野で革新をもたらす可能性があることから、その基本的な考え方や応用の仕方は、これからの起業や新事業開発においても重要な要素と思われます。シラバスから判断して、この技術に関する科目が開講されていないようですので、関連講義の新設や既存講義への取込みをご検討いただきたい。

3 今後に期待すること

- (1) 貴学が目指されている“技術と経営の融合した新産業創成”のうち、技術の裏付けとなるのが博士学位であり、これにより“光を用いて未知未踏の新しい産業を創成する”ことにつながるものと思います。また、事業をグローバルに展開しようとするれば海外の研究者、技術者、事業者等とコミュニケーションすることになり、そのような場で対等に渡り合うためにも博士学位が必須と言えます。広報や入学者の勧誘には、そのような博士学位の意義も是非アピールしていただきたいと思います。
- (2) 競争的資金等の獲得額が、R3 年度までは極めて高いレベルにあったが、R4、5 年度は減少している（※）。事業の終了などの事情も考えられますが、競争的資金は研究面でのアピールにもなることから、その獲得に継続的に取り組んでいただきたい。
(※R5 年度までのデータを元にコメントしております。)
- (3) 国においても博士後期課程学生は我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在と位置づけられており、貴学の修了生が今後さらに活躍されることを期待しています。

検証結果報告

委員名 宇津山晃

1 特に優れていると評価できる事項

- (1) 「光技術を中心としたニーズとシーズの融合による新産業創生」を建学の精神とするとともに、「起業」による実践的な教育を通して、光技術を利用した新しい価値の創出をおこない、日本の将来の基幹産業となるべき新産業の創成を目指すという他に見られない特徴を有しています。
- (2) 実績として、36 名が起業しています。
- (3) 「レーザーによるモノづくり中核人材育成講座」等を実施することにより、地域の人材育成に取り組んでいます。
- (4) 「Photonics Challenge」を開催し、光の応用産業の発展に資する人材の発掘を行っています。

2 改善する必要があると思われる事項

- (1) 入学希望者（特に起業を目指す人）を増やす必要があります。
- (2) 同窓会ができたと聞きますが、起業された人がより会社を成長させていくことに対して GPI としてサポートできるような取り組みが必要と思われます。
- (3) 卒業生の活躍（起業あるいは会社内で）を外部に対してアピールする機会をさらに増やすべきと思います。
- (4) 収入の多くを特定の企業からの寄附に頼っていますが、より多くの収入源を確保すべきと思います。

3 今後に期待すること

- (1) 起業を目指す入学生が増え、卒業生が起業した会社が成長し、社会から評価されるようなレベルになることを期待したい。
- (2) （地域の）企業との共同研究の実施により、企業の求める成果を出し、それが新しいビジネスに繋がることを期待したい。
- (3) 企業から派遣された方が卒業して企業に戻り活躍して企業に大きく貢献すること及びそれを認めた企業が継続的に従業員を GPI で学ばせたいと考えるようになることを期待したい。

検証結果報告

委員名 伊藤規晃 _____

1 特に優れていると評価できる事項

- (1) 光分野に関係した研究に関する機械装置の充実とレーザー応用技術の可能性の追求

2 改善する必要があると思われる事項

- (1) 生徒数の増加は喫緊の課題であり、各企業へのPRと貴大学における研究開発のメリットの普及啓蒙

3 今後に期待すること

- (1) 当地域における強みの深耕として、「光技術×浜松地域のものづくり技術の掛け合わせ」のために何ができるかを追求していただきたい

4. 「外部評価を受けて」 所見・今後の方向

光産業創成大学院大学
自己点検・評価委員会

自己評価書に基づき、外部評価委員による評価をいただいた。この外部評価を受けての、所見と今後の方向をまとめた。

1 所見

光分野における新産業や新事業の創出を担う人材を多く輩出し、光の応用で新しい産業を生み出すため、レーザー応用とバイオフォトンクスデザインを二本の柱として事業に取り組んでいることは評価された。また、人材育成については、「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」等を実施し、地域の人材育成に取り組んでいる点やハンズオン支援、起業ルームなど、在学生や修了生へのハード・ソフトの両面でのサポートなど、学生が求める支援体制を整備しようとしている点についても評価された。

2 今後の方向性

外部評価委員から優れていると評価いただいた事項については、今後も継続して努力し、さらに伸ばしていく所存です。

博士人材育成、研究及び地域社会貢献の観点から改善が必要とご指摘いただいた事項に対して、特に起業を目指す入学生の継続的確保や財政基盤の改善に向けて課題の確認と対応を進めてまいります。

また、本学へのご期待に沿えるよう年度計画に対応策を盛り込むなどしたうえで、関係部署を中心に実効性のある方策により着実に実施してまいります。

本学は、自己評価書等の検証結果を受け、今まで以上に、理事長、学長のリーダーシップのもと、建学の精神に基づき、世界に類のない理念を持つ大学院大学として、教育、研究、光産業創成に向けて、日々精進していく所存です。

(添付1)

光産業創成大学院大学外部評価委員会議事要旨

1. 日 時 令和6年12月24日(火) 13時20分～15時00分
2. 場 所 光産業創成大学院大学 会議室1
3. 出席者 梅村和夫委員(国立大学法人浜松医科大学副学長)
原 和彦委員(国立大学法人静岡大学 大学院光医工学研究科長)
宇津山晃委員(浜松ホトニクス株式会社 常勤監査役)
伊藤規晃委員(浜松商工会議所 中小企業相談所所長、
地域振興部部長)

大学側 伊藤学長、
長谷川自己点検・評価委員会委員長、
長井自己点検・評価委員会委員、

(事務局) 葛山事務局長、山口主幹、鈴木主任

4. 議事等

開会

- (1) 学長挨拶 伊藤学長から挨拶があった。
- (2) 出席者紹介 大学側の出席者について紹介があった。
- (3) 学内視察 レーザー加工室、試作支援室、
光加工・プロセス、光加工・プロセス2を視察した。
起業ルームを視察した。
- (4) 座長の選出 梅村和夫委員を座長に選出した。
- (5) 自己点検評価結果の概要説明
自己点検・評価委員及び事務局より自己点検・評価の手順と自己評価結果の概要について説明した。
- (6) 質疑応答(梅村座長により進行)
 - ①個人として入学して来る学生の状況について
 - ②企業からの派遣ではない学生に対する支援の状況について
 - ③入学生が少ない状況にあるが前回も同様の指摘があり、その後の

取組み、方策及び成果について

- ④今後の入学定員確保に向けた見込について
- ⑤修了者の学位の取得状況と成果の見せ方について
- ⑥入学する学生の地域の割合について
- ⑦企業のニーズと本学とのマッチング（共同研究等）について
- ⑧バイオフィotonicsデザインとレーザー応用の関連性について
- ⑨卒業生に対するアンケートの実施と対象者の選定について
- ⑩継続的に学生を派遣してくれる企業について
- ⑪バイオフィotonicsデザインのニーズ探索について
- ⑫学位の修了要件について
- ⑬卒業生の起業状況と大学からの情報発信について
- ⑭本学の特許と戦略について
- ⑮現在の収入状況（企業からの寄附金による偏り）と今後について

(7) 外部評価委員会からの意見（質疑応答の後、意見集約（座長より））

- ①学生確保に向けて何某かの協力をして行きたい。
- ②学生の確保に向けた課題に対して真摯に取り組んでいることは理解したが、継続的に実施していくことが重要である。
- ③大学の方針、目指すものに沿った学生を確保することに工夫をいただきたい。
- ④学生に対してビジネスとしての成功だけでなく、学位の価値を出す組織にしていいただきたい。

なお、各委員の検証結果報告を集約し、最終的に報告書を作成することとした。

(8) 連絡事項等今後の日程

事務局より今後の予定について説明があった。

- ①「検証結果報告」の提出（各委員） 締め切り 1月27日(月)
- ②「検証結果のまとめ」 2月上旬までに（座長と打合せ）
- ③「外部評価報告書案の各委員への提示」 2月中旬～下旬

閉会 学長挨拶

以上

(添付2)

外部評価委員会委員名簿

(敬称略、○印は座長)

○ 梅村和夫委員 (国立大学法人浜松医科大学副学長)

原 和彦委員 (国立大学法人静岡大学 大学院光医工学研究科長)

宇津山晃委員 (浜松ホトニクス株式会社 常勤監査役)

伊藤規晃委員 (浜松商工会議所 中小企業相談所所長、地域振興部部長)

